

学校点描

月曜日の放課後もがみサポ
ート塾を覗いてみると3年生5名
が一生懸命学習をしていまし
た。

《M中学校》

NO. 8 H27. 10. 22

担当：教頭

職員室では、音楽のY先生が、土日の天候に雨が近い最近の気象を嘆いています。マーチングの東北大会が近づいているからです。朝の職員打合せの後、先週はずっと体育館に向かいます。新しい2年生の応援団が、3年生の前応援団から、入場の仕方からエールの振り付け、お辞儀の仕方まで指導を受けています。「もっとゆっくり歩いて」と、前応援団長のK・Yさんから、新応援団長のA・Yさんへ指導が入っています。

『変わる大学入試』という見出しの、10月20日付け朝日新聞の切り抜きを、全職員に配付いたしました。現在の中学1年生から、大きく大学入試が変わるという内容です。改革は3点。①国立大学の1次試験や私立大の合否判定に使われる「センター試験」の衣替え、②各大学が独自につくる試験の一新、③高校生向けの学力テストの新設です。背景にあるのは、単なる知識の有無だけを問う問題、素早く正確に答える問題では、日本の大学生のレベルが上がらないという点があります。もっと、総合的に、多様化した能力を見ることが国際的な学力として問われているのです。そして現中学1年生は、この新しい入学試験に臨むことになるわけです。中学生1人ひとりにいろいろな力をつけさせなければなりません。

人としての『富嶽百景』

お昼の給食準備の時間に学習センター（図書館）を覗いてみます。

3年生のY・Mさんが、ささっとバーコードを使って借りた本を返却していました。4月から本校にはバーコードで本の貸出返却を管理するコンピュータシステムが導入されています。生徒達は、すっかり慣れているようです。

図書館の奥には、古い本が山積みされています。図書館員としてお願いしている地域コーディネーターのT・Mさんが、「廃棄処分するかどうか迷っているんですよ」と教えてくれました。なんでも、理科や歴史など、古くて内容が変わってしまったものなどがあるそうで、「冥王星は惑星でなくなりましたから」と政子さん。あ、そうだったんだと恥ずかしい思いをする私でした。ちょうど、バーコードで本を借りているM・Iさんに、ちょっぴり意地悪く「ねえ、冥王星って惑星？」って聞くと、「いえ違います。準惑星ですよ。新聞かニュースで言っていました。」と瞬時に教えてくれました。

M・Iさんの授業中では見られない顔を見た思いです。

21日（水）に、授業研究会を開催しました。山形大学の三浦教授をアドバイザーに招聘しての研究会です。町内外からも小中学校の先生方が、一緒に学ぼうと参加してくれました。今回は、T先生の国語と、Y先生の英語の授業を参観して、互いの授業について検討するわけです。教師の本文は、何と言っても授業です。

T先生の国語は、『走れメロス』を題材に、読みを深める授業です。

走れメロスは、皆さんも知っているのではないのでしょうか。太宰 治作品の一つです。ただ、あれは別の作品からヒントをもらっての作品みたいです。

太宰作品に一貫してあるのは、人はいろんな顔をもっているということ、これが絶対だという顔がないということ、見る角度で、いろんな顔が見えてしまうということ。1人の人間の多様な面を浮きただせることを文学で表現したのが太宰 治です。

今日もお昼に図書館に行ってみます。「この本、K先生が勧めている本だよ」とか言って、女子生徒8名ほどが、本選びをした後、ささっとバーコードを使って本を借りていきました。

バーコード導入の良さは、今、誰が何冊借りているのかをはじめ、最上中生に一番貸出されている本の名前など、さまざまなデータを瞬時に見ることができます。職員で本を借りている人を調べるとD先生の名前がありました。新たな面を見た思いです。生徒で人気のある本は、『カラダ探し』という携帯小説。心霊的な怖い読み物のようです。怖いものをみたくなる心理も思春期ならではです。

思春期になると、一番悩むのが友を信じるということでしょうか。今日は相手のいい面が見えていたと思うと、明日には悪い面しか見えてこないということで悩むのです。

人という生き物は一つの面だけではない、いろいろな面を持っているのだと感じながら思春期を乗り越えていくのでしょうか。だからこそ、未知なる自分の多様な面を信じては磨いてほしいものです。本はそれを、手助けする大きな道具となります。

信じていいのか悪いのか、少ない確率と思いながらも、信じて走っているのが中学生ですから。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp